

# イチゴ育苗期に発生するナミハダニの土着天敵とその利用の可能性

福岡県農林業総合試験場病害虫部 <sup>やなぎ</sup>柳 <sup>た</sup>田 <sup>ひろ</sup>裕 <sup>つぐ</sup>紹

## はじめに

促成栽培イチゴで優占的に発生するナミハダニ *Turticae* Koch は体長 0.5 mm 程度と微小であり、かつ増殖力が高いため、発生初期の把握が難しく、防除適期を逸しやすい。また、ナミハダニの薬剤感受性の低下は全国的に大きな問題となっており (国本, 2010; 春山・松本, 2013; 柳田ら, 2013), 化学的防除だけでは十分な効果が得られにくい状況である。促成栽培イチゴの本圃においてナミハダニが多発する要因は、定植苗に本種が寄生して持ち込まれることである (合田・中村, 1986)。したがって、育苗期にナミハダニを効率的に防除できる体系を確立することで、被害を抑制できると考えられる。

福岡県では、薬剤感受性が低下したナミハダニの効率的な防除として、育苗期に発生する土着天敵を活用した防除の取り組みを進めており、一部の産地では普及が始まっている。本稿では、これまでに実施したイチゴ育苗期のナミハダニ防除試験に関する試験 (柳田ら, 2012; YANAGITA et al. 2014) と現地での取り組みの一部について紹介する。

## I イチゴ育苗期に発生する土着天敵

育苗中のイチゴでの土着天敵相を把握するため、福岡県八女市において半径 1.5 km 以内で圃場間が直線距離で 400 m 以上離れている 4 圃場 (図-1, 表-1) を選び、2010 年 6 月 22 日から 9 月 19 日までの間と、2011 年 7 月 4 日から 9 月 7 日までの間、ナミハダニを接種したインゲントラップ (図-1) を用いて調査した。インゲントラップは 7~10 日間隔で交換し、回収したインゲン葉上の土着天敵を実体顕微鏡下で計数した。カブリダニ類はプレパラート標本を作製し、雌成虫のみ同定した。併せて、各圃場のイチゴ苗に発生するハダニ類雌成虫と土

着天敵を肉眼で調査した。

その結果確認された土着天敵は、ハダニアザミウマ *Scolothrips takahashii* Priesner, ハダニタマバエ *Feltiella* sp. の幼虫、カブリダニ類であった (図-2, 一部データ略)。これらのうち、発生量に差はあるものの、2 か年すべての圃場で確認された土着天敵はハダニアザミウマのみであった。ハダニアザミウマは、8 月中旬以降に多

表-1 試験圃場での殺虫剤散布実績 (2010 年)

圃場 No	散布日	薬剤名
1	7月29日	ルフェスロン乳剤
	8月4日	○ 酸化フェンブタスズ水和剤
	8月26日	クロラントラニプロロール水和剤
2	8月5日	アロニカミド水和剤
	8月19日	クロラントラニプロロール水和剤
3	7月15日	○ テブフェンピラド乳剤
	7月20日	○ アクリナトリン水和剤
	7月24日	○ 酸化フェンブタスズ水和剤
	8月1日	クロマフェノジドフロアブル
	8月12日	○ ビフェナゼートフロアブル
	8月19日	ビメトロジン水和剤
4	8月19日	○ エマメクチン安息香酸塩乳剤
	9月6日	ビメトロジン水和剤
	7月1日	○ フェンプロバトリン水和剤
	7月7日	○ フェンプロバトリン水和剤
	7月7日	メソミル水和剤
	8月2日	○ テブフェンピラド乳剤
	8月8日	ビリダリルフロアブル
	8月10日	○ ヘキシチアゾクス水和剤
	8月19日	メソミル水和剤
	8月20日	○ ミルベメクチン水和剤
8月31日	メソミル水和剤	
9月10日	アセタミプリド水和剤	

○: ハダニ類で登録のある薬剤を示す。

Capability of Natural Enemies as a Control Agent of *Tetranychus urticae* (Acari: Tetranychidae) for Protecting Strawberry in Seedling-Rearing Period in Fukuoka. By Hirotsugu YANAGITA (キーワード: イチゴ, ナミハダニ, 土着天敵, ハダニアザミウマ)